

パネル発表「学校飼育動物の可能性を探る(1)」

—休日のパニー飼育当番を通して家族が得たもの—

内藤真希

1 ポニー飼育を始めた経緯

当園はマンションに囲まれたニュータウンの中に位置する。マンション住まいの園児が多く、動物を飼う経験が少ない子ども達が多い状況である。そのため幼児期に動物と触れ合う機会を園内で用意する必要性を感じていた。園管理者が馬の扱いに慣れていた事もあって、大型動物のパニーが良いのではないかと話が上がった。そのため、「子どもが何をしても噛まない、蹴らない、大きな騒音に動じないパニー」ということで探し、出会ったのが現在のパニーである。10年近い飼育を通して感じることは、パニー飼育はプラス面の方が多いということである。週末近隣の公園に散歩に連れて行くことによって近隣の人たちにも可愛がられ、卒園児や保護者も時々懐かしそうにパニーに会いに来てくれたり、また、パニーの特殊な飼育方法・・・園庭内を乗馬したり、散歩させて青草を食べさせたり・・・を通して子どもたちが全身を使って動物と触れ合うことができ、当園が目指す「五感を通しての教育」の一つとして大変有効的であることを実感している。パニーの特殊な魅力（気持ちが落ち着かない子どもたちがパニーの回りに自然に集まったり、触れることによって気持ちが落ち着いたりする様子）について教員も注目しており、パニー飼育の効果を継続的に検討していく必要性を感じている。パニー飼育活動の中で、今回は、「休日の保護者当番を経験した家族が得たものは何か」というテーマに沿って報告をする。

2 休日の保護者当番活動を始めた経緯

休日の飼育は園管理者家族で担当していたが、動物好きの家族より飼育を手伝いと

より見かけは小さいが力は強いので安全面に心配がある。また、休日の園庭を家族に開放しお任せすることになるため約束事項を守ってもらえるかなど、心配なことが沢山あった。だが、家族での飼育経験は園児たちにとって非常に大切な思い出となるであろうと推測でき、この経験がきっかけとなって子どもたちの動物に対しての愛情や理解が深まるであろうとの確信から昨年度より休日当番の募集を開始した。

3 希望者家族を募る

H19年7月に募集の手紙を全保護者に配布した。応募条件には①幼少期の動物飼育の効果について理解、賛同してもらえること②毎月1日程度の週末を一家で園に来てもらえること③（パニーに噛まれたり、踏まれたり、パニーから落ちたりするなどの可能性もあることから）ケガに関して理解があることなどを加えた。その結果、7家族（全員年長組）から希望があり、後日、希望家族全員で研修（2時間）を行った。馬の扱い、馬房の掃除の仕方、馬と接する際の注意事項、えさの種類や散歩の仕方、園庭や休憩場所として開放している教室での約束ごとなど、質問を受けながら細かに説明をした。馬房内はおがくずを使用しており、昼の餌には乾草を与えるため、馬の毛や、草や木に対してのアレルギー反応を起こす可能性があるため、体調を見ながら慎重に作業を行なった。

うち1名は研修後アレルギー（園児が喘息を持っており、帰宅後若干の喘鳴が聞こえたとのこと）により参加辞退。最終的には6家族でH19年9月～3月までの7ヶ月、1家族約12～14回程度の飼育当番を行なった。初回のみ園管理者が横について指導したが、その後は各家族ごとで当番を行っ

た。家族は当番マニュアルに沿って飼育を行なった。1回の活動時間は平均して5時間程度である。また、ポニー当番の保護者間の交流を目的に、10月にピザパーティー、3月末には知人の牧場にて希望者対象に乗馬体験を行い、交流の機会を持った。

4 調査の目的

7ヶ月間に渡る6家族の様子を見ている中で感じたことは、保護者は園側が予想していた以上にポニーを可愛がってくれ、特に親がポニーに夢中になっていく様子が見られた。また、2学期は一日に一家族で世話をしていたが、3学期後半には毎週のように複数の家族が皆で参加し世話をする姿を見かけたり、当番を通して家族間の交流が広がっている様子が伺えた。

保護者の感想を聞く中でも、当番を通して家族は様々な学びを得たことがわかった。今後の休日当番のあり方を検討していく上で、家族はポニー飼育をどのように感じ、飼育を通して何を得たのかを明確にする必要性を感じ、アンケート調査を行なった。

5 調査方法

2008年3月、休日当番を行なった6家族に対し、アンケート調査を行なった。いずれも保護者の視点中心に家族で話し合っただけの回答を依頼した。研究大会当日会場にて、各質問項目とそれぞれの調査結果のうち、今回のテーマである“飼育当番を通して家族が得たもの”に関する調査結果に絞りパネル発表した。

6 まとめ

調査より明らかになったことを簡単にまとめると、①参加した家族像に関する項目からは

”動物好きであり、好奇心旺盛であり、子どもに貴重な経験を与えたいという家族”、“貴重な週末の時間を家族みなで動物飼育の経験をすることに意義を感じる家族”という家族像が浮び上がってきた。動物や虫と触れ合いを持ち、それらを好きになってほしいという親の希望も見えてきた。

②当番を通しての保護者の感想からは、常に緊張をしてポニーの世話を行なっている家族の姿、予想外のポニーの性質や生態に関して驚きながら理解を深めていく様子、期待通り家族で貴重な体験を多く経験でき満足であるという家族の心境、飼育を重ねるごとにポニーへの愛情が深まったという心の変化の項目点が高く、家族皆で貴重な経験ができたことが伺える。

③回答からは、多くの家族が家庭内でポニーに関しての話題が出たり、ポニーの世話をしながら家族間での会話を楽しんだり、飼育を通して家族団らんの時間を持っている様子が明らかになった。

④当番を通して子どもは何を学んだかに対しての回答では“動物への思いやり”“動物に対しての理解”“自然への興味”“責任感を育む”が多かった。

今回のアンケート調査の中で明らかになった事柄では特に、①父親のあり方②ポニーのセラピー効果の2点が今後注目したい点であった。ポニー当番は力仕事が多いため父親が中心となって世話を行なう場面が多いが、その姿が家族に良い影響を与えたという意見が多く出た。また、ホースセラピーという言葉を知っている家族が1組しかいなかったが、“ポニーに会うと優しい気持ちになる”“ポニーに話を聞いてもらう”“動きがゆったりしているので落ち着く”“子どもが安心してポニーに寄り添う”などセラピー的な効果を訴えた家族が多く見られた。これらの2点の効用に着目し、今後のポニー飼育のあり方を検討していきたいと考えている。

試行錯誤しながらスタートをした休日保護者当番であったが、一日の約5時間を家族だけでポニーの世話をするという環境条件、ポニーという大型動物の特殊な飼育方法、そして飼育動物の特性が、家族に良い影響を及ぼしたと考えられる。子どもは家族との経験を通して人格や生き方の基盤を学ぶものであるが、最も多感な時期に家族

と共に分かち合えた経験は、今後の自然に対しての興味・関心につながっていくものであると確信している。

以上報告したことは当園で細々で行なっている試みではあるが、動物飼育を通しての子ども達の学びの一つの方法として、また、家族⇄園の連携の一つの方法としても、この試みを継続して行きたいと考えている。本年度の保護者当番は6月より新規の12家族で賑やかにスタートしており、いずれ

も昨年と同様、動物好きな家族が集まっている。今後の目標としては、園から家庭に向けて動物飼育の意義について情報発信し、動物に興味がない家族にも参加し理解を深めてもらえるよう働きかけが必要であると感じている。

次回の報告では、園児たちの視点から、家族当番の効果を捉えていきたいと思う。

(新光明池幼稚園)

